

## 「重症患者における national early warning score (NEWS) と ICU 再入室のリスク因子の検討」

### ○研究の概要

早期警告スコア (National Early Warning Score : NEWS) は、日常的に観察している呼吸数、経皮的酸素飽和度、酸素療法の有無、体温、収縮期血圧、心拍数、意識レベルの7項目を観察し、その結果を点数化することで、一般病棟での急変を予測する指標として開発されました。当院でも2022年4月から迅速対応システム (rapid response system : RRS) を導入し、起動基準としてこのNEWSを取り入れています。

当院ICUでは、患者様が重篤な状態を脱したとなれば主治医によって一般病棟への退室について判断され、最終的な退室の調整は看護師が行なっている状況です。退室が決定した後も急激に状態が変化されることも少なくないため、より安全で客観的に退室を判断するためには何らかの指標が必要と考えていました。そこで今回の研究では、このNEWSの急変リスクを点数化できるという特性を利用して、安全にICUから一般病棟へ退室する判断の指標に加えたり、退室後の患者管理に活用できないか検討を行います。

### ○研究の目的と方法

本研究の目的は、ICUで治療を受けられた患者様の退室時と退室されてからのNEWSを調査することで、今後の安全なICU退室判断とICU退室後の患者管理の実践につなげていきたいと考えています。方法は、令和4年6月1日～令和6年3月31日に、当院ICUに入院されて治療を受けられた患者様の診療録と看護記録の情報をを用いて、集計や簡単な統計処理を行う研究です。研究に用いるデータは、個人を特定可能な情報は解析に用いません。

### ○本研究の参加について

本研究への参加・不参加に関わらず、利益・不利益を生じることはありません。個人を特定可能な情報は解析には使用されず、データは個人情報を削除し、匿名化した状態で取り扱います。本研究への不参加をご希望の方は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

### ○調査する内容

患者背景、ICU退室時NEWS、ICU退室後NEWS (1日の最大値、退室後30日目まで)、ICU再入室の有無について調査します。

### ○実施期間

研究対象期間：令和4年6月1日～令和6年3月31日

研究実施期間：倫理委員会審査承認後～令和7年3月31日

### ○研究成果の発表

調査した患者様のデータは集団として分析され、学会発表などで公表されます。しかし個人が特定されることはありません。

### ○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター ICU 副看護師長 前川友成

### ○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター ICU 看護師長 出口恵美

### ○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター ICU 副看護師長 前川友成 TEL : 096-353-6501